

令和7年度 第1回

吹田市障がい者差別解消支援専門部会

～ふりかえり～



日時

令和8年1月29日（木） 午後2時～午後4時



場所

メイシアター 3階 レセプションホール

当日のプログラムと新役員の選任

≡ 当日のプログラム

1. 開会挨拶
2. 委員紹介
3. 会長・副会長の選任について
4. 講演「障がい者差別解消法のポイント
～合理的配慮を中心に～」
5. グループワークの実施

👤 会長・副会長の選任

会長

春貴 委員

副会長

坂本 委員



令和7年度より新体制が発足！

グループワーク報告：

差別解消や合理的配慮に向けた意識・課題の共有

🗣️ 「伝えにくさ」の背景にある不安

「理解してもらえるか」「気を遣わせないか」という不安から、話にくさが生じてしまう

👥 対話とお互いの障がい特性を理解し合うことが重要



移動や手続きの困難

- ・ 介助者同行での長距離移動は費用負担が大きい。
- ・ マイナンバー手続きの際、暗証番号の入力器が高い位置にあった。

⇒本来便利になるものが不便になってしまう。自分たちの存在が見えていないのかな、と悲しい気持ちになる。

「自立」とエンパワメント

- ・ ただ支援をするだけでなく、当事者が「ありがとう」と言われる立場（＝主体）になれる「エンパワメント」の視点が重要。
- ・ 当事者同士が支え合うピアサポーターの仕組みづくりが強く求められている。

環境と情報のバリア

- ・ バリアフリー整備が進んでいない場所がある一方で何度も声を上げたことで障がい者用トイレの設置に至った事例もある
 - ・ 聴覚障がい者が落とし物に気づかなかったり、電車遅延の電光表示が難しいなど、情報保障への理解がまだ不足している。
 - ・ 病院では筆談で対応し、必要な情報を伝えられるよう配慮しているところもある。

対話から差別解消の輪を地域へ広げよう

「差別解消の根本は難しいことではなく、『対話』という点に尽きる。みんなそれぞれ苦手なことがあり、苦手だから助けてほしい、と対話をする事。

そんな当たり前の関係を、普段の生活の中で、この人であればどうか、と考えて意識していくことが有意義なのではないかと感じた」

— アドバイザーからの総評 —